

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第 2 号 - 2

令和 4 年 5 月 2 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

→ 連休前に「引き渡し訓練」について述べた5月号を発行しましたが、他のページは本日改めてお知らせすることとなりました。異例ながら5月号の巻頭言は2本です。なお、しおり掲載版の「修学旅行原稿」はホームページにアップしておきます。

修学旅行しおり用原稿 ～ もう一つの版

校長 吉原誠士

「ホテル本能寺」と聞いて、どのような想像力がはたらくでしょうか。1582年の「本能寺の変」は社会科でも習うことですから、宿舎の名前がそれに関係することは何となくわかるでしょう。では、ここから深入りして、16世紀の事件そのものや寺院の沿革史、戦国時代の京都の様子まで調べてみた人は何人ぐらいいるのでしょうか。

実際に織田信長が襲撃された時の本能寺は、現在地とは少し離れた場所にありました。焼けた後のお寺を移転させたのは、明智光秀を討った豊臣秀吉でした。新たな境内に隣接して私たちの泊まる宿があります。右にパンフレットを示します。私はこの文章中で、「本能寺」とあっさり書いていますが、名称の標記が異なることがわかります。様々な書体が用意されている現在のワープロソフトでも、正式名の「能」にあたる文字はフォローされていないのです。正確な字の形や、どうして“能”字を使わないのか・・・それは自分で調べてみてください。また、数年前に上映された、綾瀬はるかさん主演の「本能寺ホテル」は、実際に「変」があった跡地に建つホテルが舞台でした。つまり架空の施設で、同じ京都の映画村にセットを組んだという話も面白いと思いました。



ふとしたきっかけから“あること”を詳しく知るチャンスはいくらでも日常に転がっています。私は、こういうことを積み重ねていくことで一般常識の幅も広がり、テレビドラマの背景が理解できるようになったり、旅に出るのが楽しくなったりするものだと思っていました。ところが中学生だけでなく大人たちからも「試験に出るの?」「その知識って役に立つの?」など“つまらない”発言を聞く機会が増えてきました。効率と利益だけを前面にした学習を進めようとすることに、大きな違和感を覚えます。先日友人から「修学旅行を未だにやっているの?」「ウイズコロナの時代にはバーチャルで十分ではないのか?」などと語られ、それがいかにも“学校は遅れている”と言わんばかりだったので、大いに腹が立ちました。

本物に接することの大切さは、これまでも機会あるごとに言ってきました。五感に直接訴えかけることを積み重ねて“脳”は成長し、“人間”としても成熟していきます。私はこの大切さを理解した上で、「コンピュータを使った学習」があるのだと考えています。今回の修学旅行で、日本の“都”として在り続け、太平洋戦争の戦禍にも遭わず現代まで残された街々を巡ることは、日本文化を知ることだけでなく、それを未来に繋ぐ意義も見出そうという意識にもつながります。当日、現地でメモし、覚え、考え、さらに疑問を抱き、持ち帰ることを希望します。そして、コアな奈良・京都マニアになり、自国の伝統や文化に深い関心を寄せる人材となることを併せて期待します。